これからの少林寺拳法が目指すところ

茨城県
清真学園高等学校
笹本　千晶

私達が少林寺拳法の修行をする目的には、護身術を身につけることの他に、「社会に貢献できる人材の育成を通じて国づくりをする」という大きな目標があります。少林寺拳法が創始されてからおよそ７０年が経ち、国際化した現代において、「社会に貢献できる人材」とは、国と国との架け橋になることができる人材であると私は考えます。

私は今年の８月に少林寺拳法グループ主催の国際交流事業（※注１）である第６次訪中団に参加しました。その際、程永華前駐日大使の講演会があり、その講演の中で「現在、日中関係が悪化している」ということや、「青年交流を出会いの場として、互いに信頼関係を築くことが重要だ」ということを仰っていました。各国の将来を担う若者同士が交流することで、互いの価値観や考えを共有でき、自らの視野も広げることができるはずです。そこで私も講演会の後、中国の高校生と話をしてみました。簡単な自己紹介やレクリエーションを行う際に、互いに英語やジェスチャーを用いて一生懸命伝えようとすることで、言語や文化の違いを乗り越えて仲良くなることができました。

また訪中団に参加し、実際に現在の中国の様子を自分の目で見たことで、日本で報道されている通りではないことが多いということもわかりました。私自身は、中国に対して悪い印象持っていなかったのですが、日本国内には、中国に対して悪い印象を持つ人も少なくないように感じます。また、中国には反日感情を持つ人が多いという報道を見たことがありますが、中国滞在中に、私たち日本人に対して嫌悪感を示す人には１人も出会えませんでした。

このような経験から私は、これからの時代は、私たち若者が、他国に対して偏見を持つことなく、広い視野を持って積極的に交流することで友好関係を深め、それと同時に確かな信頼関係を築いていくことが必要であるということを実感しました。そして、その実現のためには、少林寺拳法の修行を通じて、「勇気ある正しい行動できる、思いやりのある人間」となり、そして今回私が参加した訪中団のような、少林寺拳法を通じた様々な国との交流の機会を増やしていくことが必要であると私は考えます。

最初に述べましたように、これからも少林寺拳法が目指すところは、国と国との架け橋となれる人材の育成です。そのためには、私たち拳士が、思いやりのある勇気ある正しい行動をとること。そして、広い視野を持って、様々な国との交流の機会を増やしていくこと必要です。私も、日々の修行に励み、自己確立を目指して多くの人達と交流することを心がけていきます。そして、国同士が偏見を持つことなく、互いに信頼関係を築けるよう社会全体に向けて働きかけられるような人材になっていきたいです。

※注１　国際交流事業について

少林寺拳法グループが主催、全国高等学校少林寺拳法連盟が共催となって、「２０１９Shorinji Kempo大学生・高校生拳士訪中団」が、顧問：宗 由貴先生（少林寺拳法グループ相談役）、団長：川島一浩先生（一般財団法人少林寺拳法連盟会長）、副団長：石井航太郎先生（全国高校少林寺拳法連盟会長・桜林高校校長）、全国高校連盟常任理事の引率のもと、２０１９年８月に大学生４７名、高校生５０名が参加して実施された。